

進んで考え学び合う児童の育成

～一人一人のよさを生かす授業づくり・学級づくりを通して～

はじめに

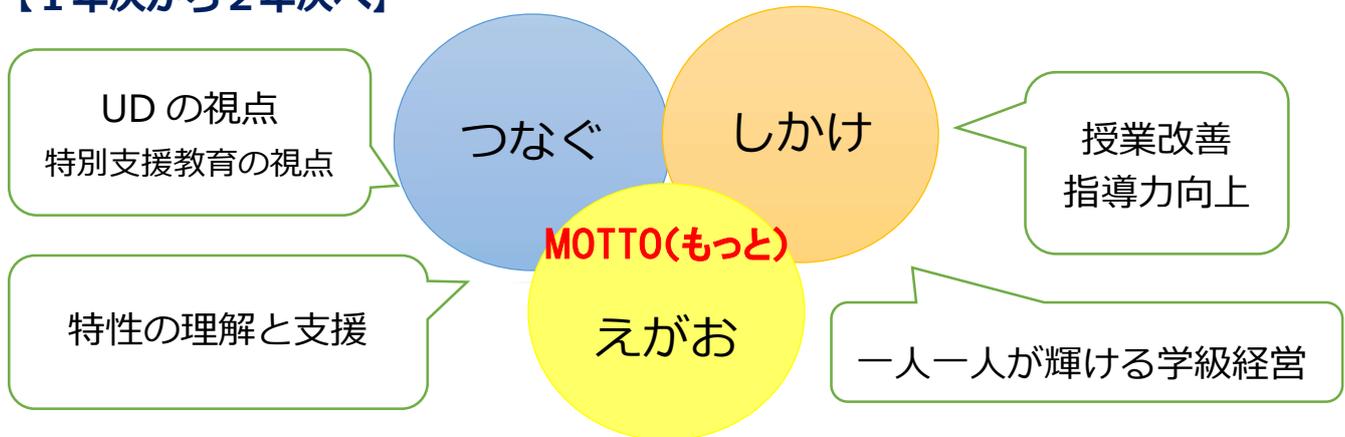
校長 長澤 誠

昨年度から埼玉県学力向上研究指定事業の委嘱を受け、①授業づくり②学級づくり③家庭との連携の3つを柱とし研究を進めてきました。今年度は更に「UDの視点」を加え、「つなぐ・しかけ・MOTTO えがお」をキーワードに、取り組んできました。

「学級経営」と「授業づくり」は車の両輪です。授業研究会や指導者からの講話を受け、2年間の研究を通して、様々な角度からアプローチしていった取組は、着実な成果を感じるまでに至りました。地道ですが着実な研究と実践を進めてきた研究内容を本報告としてまとめました。ぜひ、ご覧いただき、ご指導・ご鞭撻を賜れば幸いに存じます。

研究の概要

【1年次から2年次へ】



【研究組織と活動内容】

ブロック研究部

- 低学年 中学年 高学年 特別支援
- (活動)
- ・研究授業
- ・研究協議
- ・各チームの研究の具現化
- ・環境整備

授業づくりチーム

- (活動)
- ・授業形態の工夫 (複線型授業スタイル)
- ・児童分析 (帳票 40色分けシート)
- ・研修ボード (実践報告、最新の教育)

学級づくりチーム

- (活動)
- ・非認知能力向上の取組 (信頼関係づくり)
- ・家庭との連携 (新宿ノート、「子どものやる気・元気を引き出す合言葉」通信)

授業づくりチーム

「なんで？ どうして？」のつぶやきを大切に、
45分間考え続ける**全員参加の授業**を目指します。

算数「複線型授業」 ～新宿 Ver～

今までの自力解決を1～2分にし、学習形態の自己選択・自己決定をプラス

一人では考えが0でも、
友達と関わることで一歩進める。



少人数

グループ



ペア

一人

友達と学んだことをノートにまとめる（アウトプット）

全体で練り上げ
見方・考え方を広げる

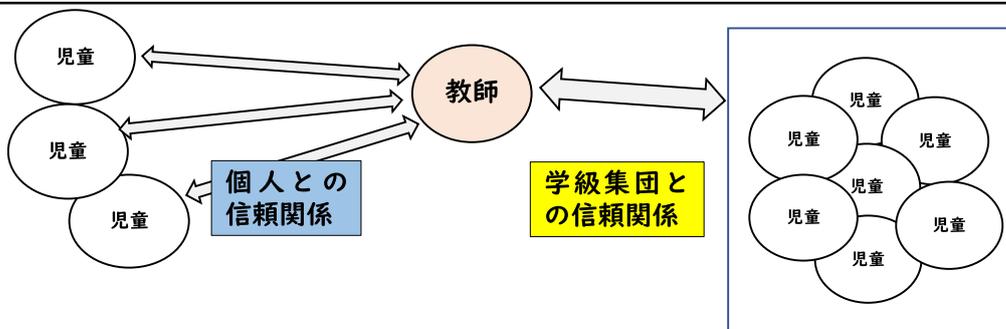
新宿小では**みんなで学ぶ「練り上げ」の時間**を大切にしています。先頭集団（わかっている子、分かったつもりの子）だけで授業を進めずに、**立ち止まり全員を巻き込む発問や切り返し**を意識しながら授業を進めています。

【全員を巻き込む発問例】（新宿小ハンドブックより）

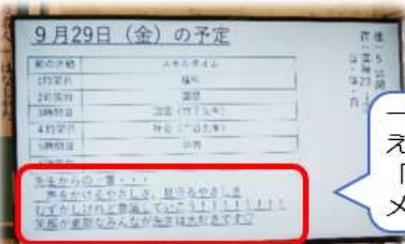
- ・○さんの説明の続きが言えるかな？
- ・□さんのこう考えた気持ち、わかる？
- ・まだ、困っている人にヒントが出せるかな？
- ・今の○さんの説明を、隣の人にもう一度言ってみよう。

学級づくりチーム

一人一人の特性を理解し、寄り添い、支援しながら信頼関係を築いていくことを出発点に、「共に学び、共に成長する」学級を目指します！

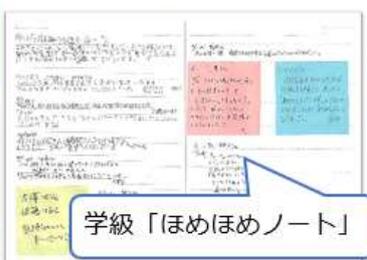
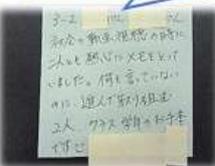


褒め言葉5S 「さすが、すてき、すごい、素晴らしい、それでいい」



一日の日課を伝える予定表に「先生からのメッセージ」を。

付箋で担任に伝える。



学級「ほめほめノート」

毎朝、担任からの温かいメッセージで一日をスタート！！（朝の会に新設）

- 「よい行い」が価値づけされ、周りの児童もプラスの行動が広まるように学級全員の前でほめる。
- 児童同士も友達のよさに気付けるように、教師が意図的に児童をほめる。
- ・教師が児童一人一人のよさに目を向けることで、より深い児童理解につながる。



4年生担任も参加



1年生 仲間づくり

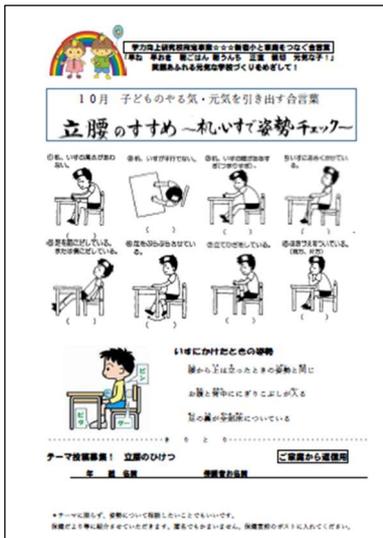


6年生心を一つに

共に学び 共に成長する 仲間づくり

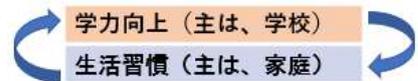
- 毎週木・金スキルタイムに設定（3週に1回、各学年にハッピータイム）
- 活動場所は、校庭、体育館
- 学年、あるいは学級単位で遊ぶ（活動する）
- 遊びで見せる児童の様子を観察
- ・遊びから、児童同士の人間関係を広げる。児童と教師の関係を築く。

学級づくりチーム(家庭との連携)



「新宿小と家庭をつなぐ 合言葉」

家庭との連携を図り、
学校・家庭の両方からア
プローチすることで、**子
供たちの意識づけが強化**
できる。



養護教諭の専門的見地から、学校全体がチームとなって学力向上へしかけていくことが本校では重要。

成果と課題

学級経営は土づくり

子どもが育つ土には、**栄養(学び・意欲・習慣)**と**潤い(思いやり・笑顔・感動)**が必要で
す。2年間の研究を通して、**学級づくりと授業づくりは一体となって進める**ことがいかに大切か
身をもって実感しています。

○教師と児童相互の関係がより深まり、自己効力感ややり抜く力が
高まることによって、主体的な学びや協働的な学びが広がり、着実
に学力の向上が見られる。

○一人一人の状況を客観的・多角的に教師が把握することで個別最適
な学びを引き出し、学習のみならず学校生活全体への指導が充実し
た。また、成長を児童と教師が共有することで自分自身を見つめ直
すことができ、よりよい生活習慣や落ち着いた学習態度が身につい
てきた。

○学び続ける教師の想いが児童へ届き、一人一人の健やかな成長につながっている。

●授業での協働的な学びを一層深める。また、そのための学習方略を意図的・効果的に取り入
れられるよう実践を重ね改善していく。



おわりに

今年度、本校の研究のために、丁寧なご指導を賜りました埼玉県教育局市町村
支援部義務教育指導課 中里 こず恵 先生、埼玉県教育局西部教育事務所
関 齊史 先生、東松山市立青鳥小学校教頭 稲葉 昌弘 先生に心より深く感謝申
し上げます。ご指導ありがとうございました。

